

関東信越税理士会新発田支部長賞

税がもたらす豊かな社会

新発田市立 加治川中学校 三年 北 澤 知 宙 さん

日本には、様々な種類の税がある。しかし私は自分で買い物をすることが少ないので、どのような税があるのか、どのようなことに使われているのかということを知ることがなかった。最近、増税が行われるのではないかと噂があり、私はなぜ税金を納めることが必要なのかについて考えた。

江戸時代には年貢という税が既にあった。その時代には年貢の軽減を目的とした百姓一揆が頻発していた。しかし今では減税を訴えるデモなどはほとんど見受けられない。今の時代と江戸時代の税では何が違うのか。それは税を納める全ての人に還元されているかどうかという点だと思う。江戸時代の百姓は年貢を納めたとしても、生活は保障されなかった。一方、現代では税は様々なインフラの整備や教育に使われている。これこそが税が必要な理由だと思う。税があることで私たちの社会生活が成り立っていると言っても過言ではないと思う。

税金はどのようなところに使われているのか。例えば医療費やインフラの整備といった社会生活の基礎となるものに使われている。SDGsにもあるように、インフラの整備は国の生産性にも直結するので、住みやすい町づくりはとても重要なのだと感じた。教育費にも税金がかけられていて、日本の高度な教育を支えていてすごいと思った。また、使い道という訳ではないが景気を調整したり、関税も税金なので国内の産業を海外から保護したりと、あるだけでも社会が安定するような考えられたシステムなのだった。

このように税金は全ての人々が安心して暮らせるようにするために国民が払うべき、いわば物に対して払う「対価」であるということが分かった。その一方で、現在日本では、脱税のニュースが多く見られる。たしかに自分で稼いだお金は大切なものだという意見も分かる。しかし、その人が今まで生きてきた中でもたくさんの税金が使われている。これはどの人でも同じである。誰もが税金の恩恵を受けて生きている。一人一人が払える税金の額は違って、少なくとも、たくさん集まれば様々なことができる。だから税金は、全ての人々が納めることに意義があると考えている。

税金を納めるのは自分のため、そして国民みんなのため、支え合いの精神で社会をよりよくしていくためにも、税について知り、納めていくべきではないだろうか。